

農学知的支援ネットワーク

ICCAEは、高等教育機関による国際教育協力の強化に向けて、かねてより大学等が有する知的資源を組織的、継続的に活用する方策が必要であると考えてきました。3年前から、そのためにはおもに教員個人の努力と情熱に依存してきたこれまでの国際協力から、大学や国際農業研究機関、国際協力機関などの関係機関間の連携による高質な知と経験を活かす国際協力を可能とする組織が必要であることを提言してきました。それを受け、関係諸機関の理解と協力によって、2009年11月、農学知的支援ネットワーク(Japan Intellectual Support Network in Agricultural Sciences: JISNAS)を発足させました。

JISNASは、国際教育協力に関連する国内の援助リソースと海外の支援ニーズの把握やそれに基づくプロジェクトの形成、関連事業の獲得、効果的な事業実施などをリードする活動を行っています。ICCAEは、全国の農林畜産分野の大学/研究機関等約30機関および個人会員をまとめるJISNAS事務局としてJICA等の国際協力機関と連携した科学技術国際協力に向けて中心的な働きをしています。JISNASを通じて我が国に限らずアジアやアフリカの途上国の若い研究者の交流や育成のため国際教育協力を強化・推進しています。

農学知的支援ネットワークの目標

1 活動事例を基にした科学技術からなる知的支援ネットワーク

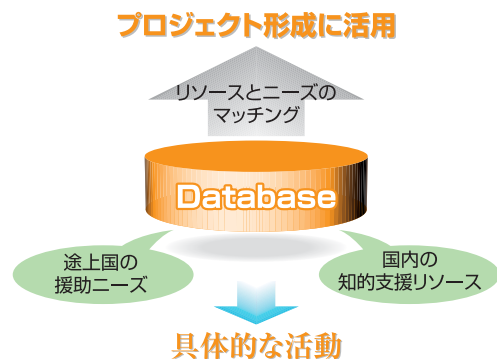
農林水産分野の大学/研究機関等からなる知的支援ネットワーク



1. 大学間の連携によるJST/JICA事業等国際共同研究プロジェクトの形成と必要な海外調査のサポート
2. JICA国内研修の受託と留学生等受入など

2 大学間連携による活動事例の形成・蓄積・共有

国内知的援助リソースと途上国支援ニーズのデータベース作成・管理



1. 国内援助リソースと海外支援ニーズにかかる調査分析と発信
2. JICAとの連携とその強化 (情報共有・JICAへの助言・提言等)

農学教育協力のためのデータベース

ICCAEは、1999年より、農学高等教育や技術協力に興味や関心をもつ国内の大学・短期大学の農学関係の教員、農林水産系高校の教員、国及び都道府県の農林水産系試験研究機関等の研究職員を含む人材のデータベースを整備し、2010年4月現在2067名が登録されています。2009年10月から既登録者または登録希望者がインターネットを介してアクセスし、情報更新や登録を行えるシステムに変更しています。